

第2回国際シンポジウム「現代世界におけるスラヴの言語と文化」参加報告

鈴木 理奈

2012年3月21日~24日にかけてモスクワで開催された、第2回国際シンポジウム「現代世界におけるスラヴの言語と文化」(II Международный симпозиум «Славянские языки и культуры в современном мире»)に参加した。¹これは聖大ワシリイ慈善基金(Благотворительный фонд Святителя Василия Великого)²と「ルースキーミール」基金(Фонд «Русский мир»)³の後援により、モスクワ国立大学で3年に一度開かれる国際シンポジウムであり、スラヴ諸語の存続・発展と研究、現代世界におけるその役割、グローバル化におけるスラヴ文化の維持の問題を提示し論議する事を目的とした、世界のスラヴ学における意義ある大会として2009年に初めて開催されたもので、今回はその第2回目が行われた。



第2回国際シンポジウム「現代世界におけるスラヴの言語と文化」の予稿集として刊行された「Труды и материалы」⁴には415編の報告が選定されているが、実際に参加したのは31カ国から285名の発表者であった。参加国はロシア、オーストリア、アゼルバイジャン、イギリス、アルメニア、ベラルーシ、ブルガリア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ハンガリー、ドイツ、イスラエル、イラン、スペイン、カザフスタン、中国、ラトビア、リトアニア、マケドニア、モルドバ、ノルウェー、ポーランド、セルビア、スロバキア、スロベニア、アメリカ、ウズベキスタン、ウクライナ、フィンランド、クロアチア、チェコ、日本である。

この国際シンポジウムでは、2つの本会議、現代スラヴの言語学・文学・文化学の様々な問題を考察する15の分科会36セッション、5つの円卓会議が開かれた。分科会のテーマは文献学の関心の現状が反映されており、「スラヴ諸語の言語理論と研究法」、「スラヴ諸語の文法研究の傾向」、「スラヴ諸語の統語論」、「スラヴ諸語の語彙論と語解」、「共時と通時におけるスラヴの方言」、「スラヴ諸語の外国人向け教育法」、「スラヴの文学」、「スラヴの民俗学」、「民族文化の創造とスラヴ諸語の関係性」、「スラヴ諸国の言語事情と政策」などの問題が論議された。シンポジウムでの使用言語は全てのスラヴ諸語が対象であった。

国際シンポジウムはモスクワ国立大学文献学部長 М. Л. Ремнёва 教授の挨拶で幕を開け、21日に開会式と基調講演、22日~23日は分科会と円卓会議、24日は閉会式と基調講演の日程内容で行われた。本会議場となるホールのエントラン

スではロシアの出版社による展示即売会が開かれ、21日と24日の夜にはパーティーも催された。シンポジウムの受付時には、学会プログラムと予稿集の他、モスクワ国立大学で刊行された М. В. Ломоносов 生誕 300 年記念寄稿本 «Ломоносовский сборник» が参加者全員に無償配布された。なお開閉会式は欠席する人が少なくなかった印象で、講堂会場は若干空席が目についたが、分科会場は多くの参加者が集い、活気溢れる学術交流の場となった。

日本からのエントリーは私を含めて 2 名だった。発表者と報告題名は以下の通りである。

Канэко Ю. Как определить «моментальные глаголы»? Сопоставительный анализ русских и японских глаголов

Судзуки Р. Формальный состав и функция предложных единиц с параметрическим значением (в зеркале японского языка)

私は 3 月 23 日午後の部で、E. В. Клобуков 教授が統括する「スラヴ諸語の文法研究の傾向」の分科会にて発表を行った。⁵ロシア語と日本語における前置詞的機能と語彙的な対比などについて聴衆から関心が向けられ質問がなされた。この日時の分科会での発表者は 11 名の予定であったが、その内ウクライナから



の報告者 1 名は都合により欠席された。また大変嬉しい変更もあり、ロシア語のイントネーション構造 (ИК) の考案者でもある著名な言語学者 E. A. Брызгунова 先生がぜひ発表をしたいと申し出られ、急遽この分科会場で登壇する事になった。貴重な発表を同分科会場で聞ける事は大変光栄で意義深いものであった。またこの会場には

M. В. Всеволодова 教授が出席されており、活発な討論にも大きな働きかけをして、分科会は大いに盛り上がった。

シンポジウムの分科会では、プレゼンテーション用の機器は一部の教室にのみ置いてあり、私が発表した会場にはなかった。また機器は設置されていても、専属スタッフが張り付いているわけではないので、全て各自で行わなければならない。今回、ある分科会場では操作に戸惑い、報告が度々中断するというアクシデントがあったようだ。私が出席していた別の分科会場では、スタッフはいないものの、係員が度々様子を窺いに見回りにきており、入口付近に座っていた私に、機器の作動状況は問題ないか訊ねてきたりしていた。発表会場では操作に戸惑う人がいれば、皆で助け合いながら行うという状況である。ロシアで行われる学会の分科会ではプレゼンテーション用の機器を置いていない事が

多いため、もし今後日本から参加を予定する人がいる場合は、事前に設置状況を把握しておく事をお勧めしたい。

シンポジウムでの報告は緊急性と専門的水準が高く、参加者の関心を誘うものばかりで、友好的な暖かい雰囲気の中で終始活発な討論が行われた。国際シンポジウムへの参加は、学術的な刺激を受けたり、他国の研究者達と交流したりする上でも大変有意義なものであった。

(すずき りな, 札幌医科大学)

¹第2回国際シンポジウム「現代世界におけるスラヴの言語と文化」のウェブサイト。
<http://www.philol.msu.ru/~slavmir2012/totals/>

この統括資料の情報も補いながら学会参加報告をする。

²聖大ワシリイ慈善基金（Благотворительный фонд Святителя Василия Великого）は、若い世代の育成と発展および創造的潜在能力と可能性の実現化に貢献する活動を目的として設立された、最も大きいロシアの慈善基金の一つである。

³「ルースキーミール」基金（Фонд «Русский мир»）はロシアの言語と文化の普及や、世界の様々な国におけるロシア語教育の支援を行う組織として、2007年にプーチン・ロシア連邦大統領令により設立された。

⁴Славянские языки и культуры в современном мире. II Международный научный симпозиум: «Труды и материалы»/ Составители О. В. Дедова, Л. М. Захаров, К. В. Лифанов; Под общим руководством Л. М. Ремнёвой, М., 2012. – 408 с.

⁵第2回国際シンポジウム「現代世界におけるスラヴの言語と文化」予稿集「Труды и материалы」のウェブサイト。（鈴木理奈の発表要旨は冊子体・電子版共に271頁に掲載）
http://www.philol.msu.ru/~slavmir2012/pdfs/slavmir2012abst_13.pdf

第2回国際シンポジウム「現代世界におけるスラヴの言語と文化」プログラムのウェブサイト。
<http://www.philol.msu.ru/~slavmir2012/timetable/?secid=13>

（学会ウェブサイトは2012年8月10日現在閲覧可能）